



「一日一日、子供と向き合い続けたい」と語る福田園長（9日、さくら市喜連川の養徳園で）

# 増える虐待 役割重く

## さくら「養徳園」65周年

さくら市の児童養護施設「養徳園」が26日、創立65周年を迎える。全国で児童虐待が増加する中、これまでに660人以上の子供たちを受け入れ、成長を見守ってきた。近年は育児の負担を減らして虐待を防止するため、一時的に子供を預かるショートステイ事業にも力を入れる。福田雅章園長(但)は「これからも一日一日、子供と向き合っていく」と誓っている。(折田唯)

## 児童養護施設 一時預かりに力

児童養護施設 児童福祉法で定められた福祉施設で、保護者のいない子供や虐待を受けた子供などを、児童相談所から受け入れて養育し、自立を支援する。県内では社会福祉法人や自治体が計11か所を設置し、1日時点で約440人が入所している。

養徳園は1957年11月26日に創設。当時は高度成長期に差し掛かったばかりで、まだ貧困家庭も多かったといい、金物商だった初

「ただいまー」。午後2時を過ぎ、ランドセル姿の児童らが次々に下校し、園庭は野球や縄跳びをして遊ぶ声でにぎわった。近隣で借りている民家なども含めて、施設には3、18歳の47人が入所。福田園長は「この子たちにとっては、ここが家。今日も楽しく過ごしてほしい」と優しいまなざしを向けた。

代理事務長の故・野沢益治氏は、私財をなげうって施設を用意し、身寄りのない子供を県の児童相談所から受け入れた。90年代に入ると、児童虐待に対する社会の認知度が徐々に高まった。全国の児童虐待件数は、昨年度の20万7659件(速報値)まで31年連続で増加。養徳園の運営法人も、さくら市の児童養護施設の運営を引き受けるなどして、受け入れを拡大してきた。

福田園長自身、幼い頃に母親を交通事故で亡くし、養徳園にお世話になった一人だ。園を出た後も、中学

教諭の傍らボランティアとして関わってきたが、野沢氏から亡くなる前に施設の将来を託され、93年に園の職員となった。

「24時間365日子供と向き合ってきたが、答えのない仕事」。家庭で心の傷を負った子供は大人への信頼感が薄く、反抗的な態度を取ることもあった。日が暮れても帰らず、職員が総出で付近を捜し回ったことも。子供が施設外で同級生にけがを負わせた時は「保護者として心の中まで寄り添えていたのだろうか」と深く落ち込んだ。

それでも、巣立った子供たちから結婚の報告を受けると、「養徳園以外にも帰る場所を作れたんだ」と喜びを感じる。定期的に運営費を寄付したり、施設に戻って職員として働いたり、そんな園出身者の協力もあって運営が続いている。

2015年には、済生会宇都宮乳児院(宇都宮市)とともに、「児童家庭支援センター」を県内で初めて設置。虐待を未然に防ぐため、子育てに余裕のない親などから一時的に子供を預かるショートステイや相談業務などを行っている。ショートステイの利用実績は、初年度は7件延べ27日にとどまったが、昨年度は217件、延べ615日に増加。近所付き合いが希薄化したこともあり、育児の悩みを抱えて孤立する親のニーズは高まっている。

福田園長は「児童養護施設に入る子供に対し、先入観や偏見を持つ人はまだ一定数いる。養徳園が地域社会の中で存在感を高めることで、子供を社会全体で育てる機会を高めたい」と話している。

2022.11.17  
読売新聞栃木版

### 【記事の訂正】

現在、福田雅章は児童養護施設養徳園の園長ではなく、社会福祉法人養徳園の総合施設長です。児童養護施設養徳園の園長は現在、加藤準一が務めています。